

令和4年度

東京都教職員研修センター紀要

第22号

令和5年3月

はじめに

将来の予測が困難なVUCAと言われる時代において、一人一人が多様な幸せを実現できる社会を展望する上では、子供たち自身が当事者意識をもち、様々な課題に対して能動的に関わりながら生きていこうとする姿勢を育むことが大切です。そのため、私たち教育を担う者には、0歳から18歳までを見通した学びの連続性に配慮をしつつ、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育の実現」を目標に掲げて、子供たちの意欲を引き出し、主体的に学び続ける力を育めるよう、指導を工夫・改善していくことが求められています。

こうしたことから、東京都では、あらゆる分野でデジタルトランスフォーメーションが加速している東京の強みを生かし、教育の分野においても、一人1台の学習者用端末を活用して、子供たち一人一人の理解や学習の進度に応じた学びを提供するとともに、多様な場で多様な学びを実現することを目指しています。これらを踏まえ、東京都教職員研修センターでは、令和4年度、以下の研究に取り組みました。

第1は、「小・中学校における学習者用デジタル教科書等を活用した学びの追究に関する研究（2年次）」です。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るため、学習者用デジタル教科書等を効果的に活用した指導モデル案を開発しました。

第2は、「特別支援教室及び通級における指導に関する研究（1年次）－発達の段階を踏まえた自立活動の指導の充実－」です。都内公立小・中学校及び都立高等学校の特別支援教室等に関する実態調査を行い、課題を抽出するとともに、明らかになった自立活動の指導に関する課題に対して、改善を目指した開発物を作成しました。

第3は、「第15回東京都公立幼稚園・こども園5歳児の運動能力に関する調査研究－小学校教育との円滑な接続を見据えた指導の工夫と改善－」です。これまで、当研修センターでは、幼児教育の充実及び小学校教育との円滑な接続・連携を図ることを目的として、昭和55年度から3年ごとに調査を実施してきました。本年度は、5歳児の運動能力の実態を明らかにするとともに、子供の学びに対する切れ目のない指導の実現を目指した、幼稚園及び小学校の教員間の新たな研修方法について開発しました。

各区市町村教育委員会及び園・学校におかれましては、本紀要に掲載した研究の成果及び調査の結果を教職員間等で共有していただき、各園・学校における学習活動等の改善・充実に向けて、広く活用していただければ幸いです。

結びに、当研修センターの教育課題研究の推進に当たり、関係教育委員会をはじめ、検証授業及び調査等に御協力いただいた園・学校の先生方、多くの御示唆や御助言をいただいた講師の方々に御礼を申し上げます。

令和5年3月

東京都教職員研修センター所長
藤井 大輔

目 次

1 小・中学校における学習者用デジタル教科書等を活用した 学びの追究に関する研究（2年次）	3
2 特別支援教室及び通級における指導に関する研究（1年次） ー 発達段階を踏まえた自立活動の指導の充実 ー	23
3 第15回東京都公立幼稚園・こども園5歳児の運動能力に関する調査研究 ー 小学校教育との円滑な接続を見据えた指導の工夫と改善 ー	43
参考文献・資料等	64
研究に携わった所員・講師・教員研究生・研究協力校	65